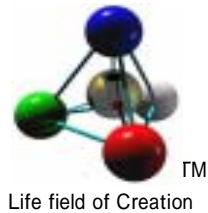


## HUT2 Concept Proposal



Proposal May 26th 2003 by Yamaguchi Taikoh Gainendesign Laboratory  
Copyright (C) 2003all rights reserved by Taikoh Yamaguchi @ Gainendesign.com  
url=<http://www.gainendesign.com/> [taizan@gainendesign.com](mailto:taizan@gainendesign.com) tel=0466-43-4713

2001年に開発したHUTの進化型として、さらに共同研究を深化させ、狭小空間の本質を究めていくというHUT2のプロジェクト方針に則って、コンセプト・メイキング部分の強化を図り、アイデア出しの一助となることを期して、コンセプト関連情報を以下にまとめる。

コア・コンセプト、キーワード部分については概念生成の観点からの“叩き台”として提示する。これは主に発想の広がりをアシストする「発想エンジン」としてややコンセプチュアルなイメージが中心となる。まずは概念生成範囲をできるだけ広げ、豊富なアイデアを出し合い、その後、現実的な具現化物への絞込みを行うことになる。

狭小空間というテーマに関する概念形成のための創造“場”は既にHUT研究着手以来構築されてきているので、この部分を含めてHUT2開発(特にコンセプト開発)の創造“場”は、基本的に形成されているといえる。

今回のテーマで場所や工法などHUT2に限定的に関わる内容について、上記創造“場”に加え、ダイレクト・イメージ法(後述)を適用することで、HUT2の持つ概念空間を明らかにしながら、コア・コンセプトや概念構造をディスカッションしながら設定していく。

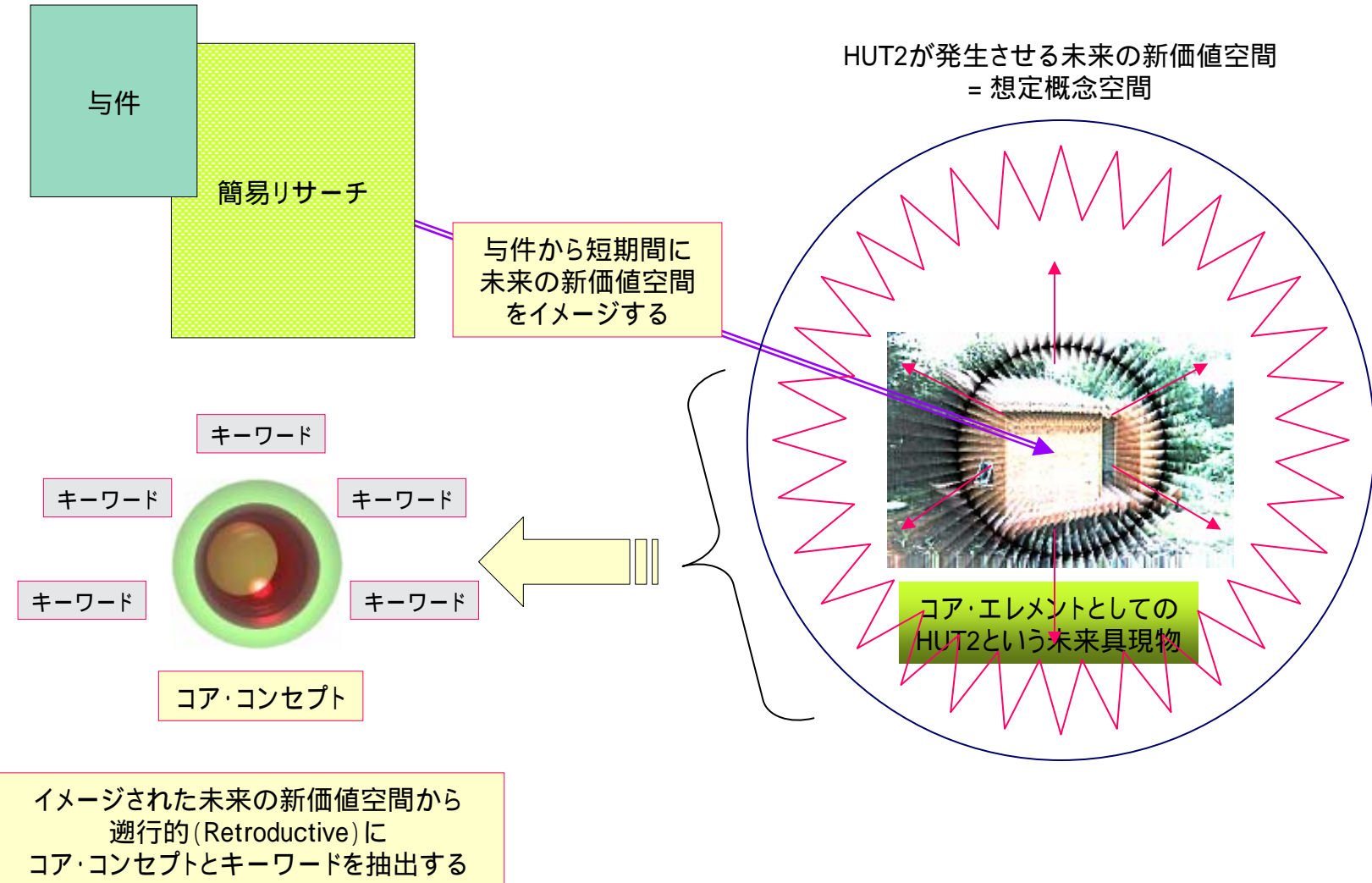
コンセプト・メイキングのプロセスで言えば、HUTに続きHUT2はより典型的なOCM(Ordinary Concept Making)手法によるコンセプト開発となる。

なお、最終形態が決定された後に、あらためてRCM(Reverse Concept Making)を行い、コア・コンセプトと概念構造の確認を行い、必要に応じて、コア・コンセプトや概念構造の洗練化をする予定である。



通常のコcept・メイキング (OCM ; Ordinary Concept Making) のプロセスにおける創造“場”をさらに強化させるために、HUT2ではそれが発生させる“空間”そのものを、与件及び簡易リサーチに基づいてアブダクション (abduction ; 仮説推論) 的に「イメージ化」し、その想定概念空間から直接コア・コンセプトとキーワードを抽出してしまうという方法をとる。

**「ダイレクト・イメージ法」** この場合のコア・コンセプト、キーワードは概念生成のための叩き台となる。



迅速なコンセプト・開発をするためにも、今回の与件は重要。与件は下記の11に集約される。

### 与件

カナダ、トロント郊外  
環境の良い広大な敷地(湖畔)  
夏季限定  
HUT2002の進化版 = 環境対応型狭小空間  
ノックダウン方式 & セルフビルド  
建築と家具の両要素(環具\*)  
インストーション的要素も考慮  
基礎なし構造  
簡便 & 廉価  
将来的には企業とのコラボも照準に入れる  
サマーキャンプ拠点としても利用

\***環具**;環具すなわち「環境を生成する家具」はオリジナルHUTから用いている概念ですが(言葉としては以前から存在する)、テーマである狭小空間を考えるに当たって、「サイズやフレーム」という視座を超えた空間作りが重要になるといえる。つまり既に構築されている建築の概念と家具の概念を超えながら、さらに新たな空間形成に挑戦するという意味で、家具などの個物が複数存在することによって生成する「ハザマあるいは関係性における空間」を探究することが今回のプロジェクトでは重要になる。

オリジナルHUTでの新たな空間発生源は“座”であり、主に座するための道具が概念上の主役であったが、HUT2ではそれも含め、家具群、個別装置群がその連環の中で発生させる新しい空間が主役となる。その意味で、「環境 = そこにおける新しい空間---を生成する新しい家具群」の概念的な総称としての“環具”(ゴロも良いかと思われる。)を踏襲して使用していきたい。



与件を補強するために簡易リサーチおよびイメージ・シャワーをウェブ上で行った。

イメージ・シャワー = DIMで想定されるイメージに近い与件に関する写真情報などをランダムに相当数“浴びるように”頭の中に入れる。

詳細は約10ページほどになるが、割愛。



想定概念空間から直接アブダクションして、下記のコア・コンセプトとキーワードを抽出した。  
プロジェクト内でのディスカスを通じてコア・コンセプトとキーワードを確定していく。



\* **環具**;環具すなわち「環境を生成する家具」はオリジナルHUTから用いている概念ですが(言葉としては以前から存在する)、テーマである狭小空間を考えるに当たって、「サイズやフレーム」という視座を超えた空間作りが重要になるといえる。つまり既に構築されている建築の概念と家具の概念を超えながら、さらに新たな空間形成に挑戦するという意味で、家具などの個物が複数存在することによって生成する「ハザマあるいは関係性における空間」を探究することが今回のプロジェクトでは重要になる。オリジナルHUTでの新たな空間発生源は“座”であり、主に座するための道具が概念上の主役であったが、HUT2ではそれも含め、家具群、個別装置群がその連環の中で発生させる新しい空間が主役となる。その意味で、「環境 = そこにおける新しい空間---を生成する新しい家具群」の概念的な総称としての“環具”(ゴロも良いかと思われる。)を踏襲して使用していきたい。

環具;「環境を生成する家具」は、これまでのサイズや枠組みによって物理的に拘束される閉鎖空間という概念を次の点で革新しているといえる。

家具というそれまでは空間中に付随する個物こそが、むしろ逆に空間を発生させる家具そのものが空間ではなくて、家具の連鎖的な関係が空間を発生させる発生させる空間とは“環境”とよぶに相応しいフレキシブルな概念である

HUT2ではこれにさらに概念的な進化が要求される。すなわち、

家具という個物的な存在を超えて、“個的存在”自体(抽象度が高い)としてみて行く発生させる空間は“変化(へんげ)”するものであり、発生ダイナミズムが必要生成された空間は環境を越えて、出現形態としての審美性が必要である

このような新たな空間をHUT2では概念設定していくことが重要ではないかと考える。それに基づいて“環具”を超える空間概念のネーミング案として以下を提案したい。



語呂、音感、対称性、意味性、簡素性を考慮して、HUT2のネーミングを美生坐とした。

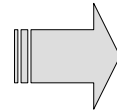
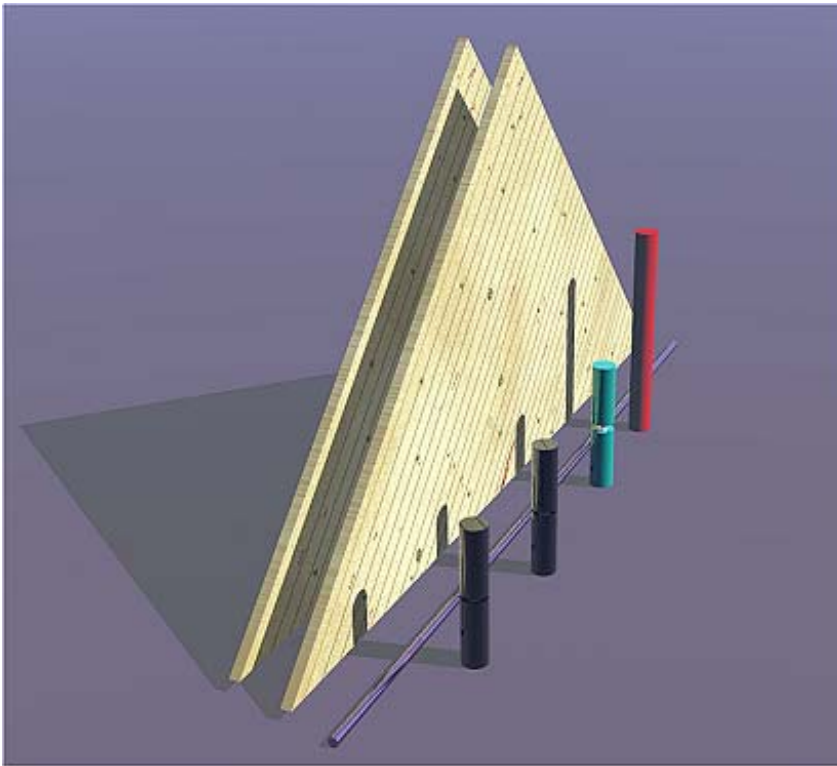
空間が生き生きと発生するというダイナミズムを謳うことが重要である。

み      も      ざ  
美   生   坐

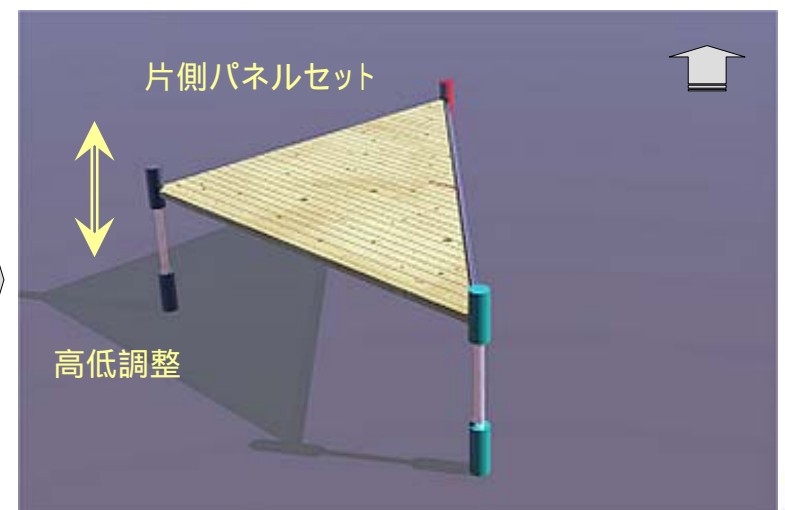
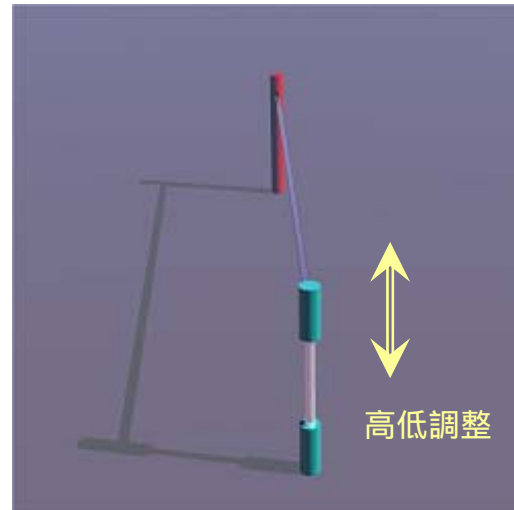
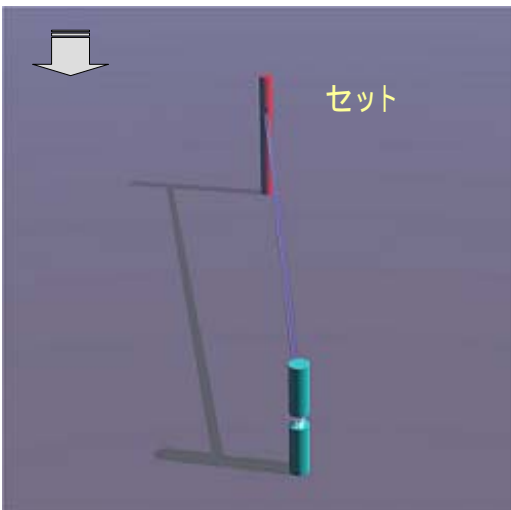
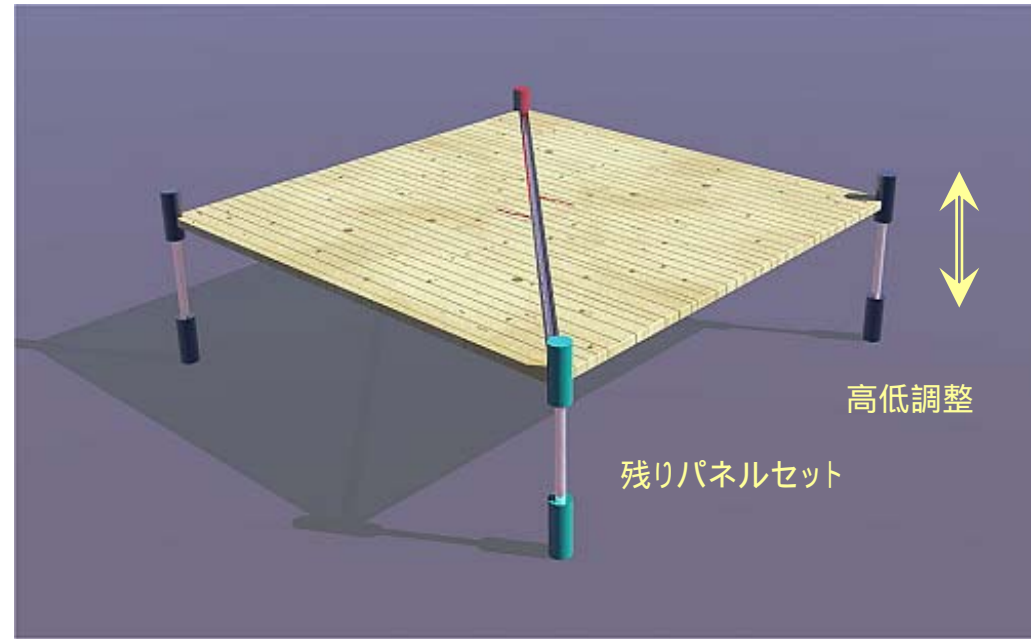
HUT2以降の生成空間には審美性が求められる。

其処にアル、置かれる、座る---などは個々の存在を意味している。  
坐はイマスでもあり、存在の意味を問うている。





三角パネルと調整バーによる簡易水平面出しの床  
 3回の照準合わせで水平が出る。格納時には極めて  
 体積が減少する。傾斜地でもセッティング可能。

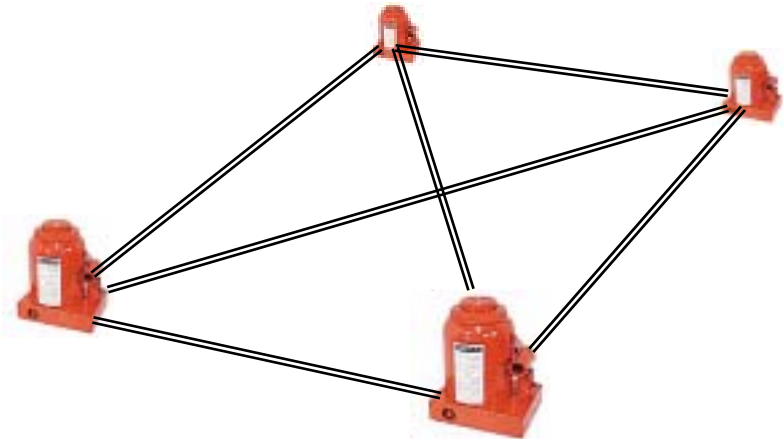




ジャッキサンプル  
大阪府和泉市  
(株)エイシン

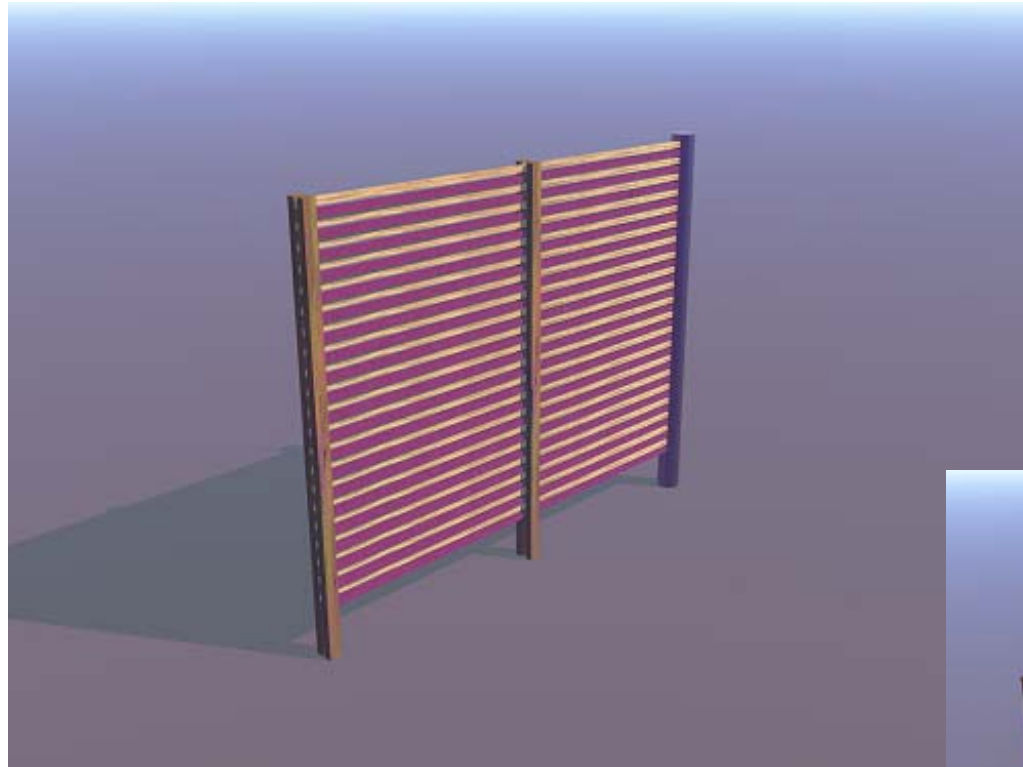
低型油圧ジャッキ  
EC-20DB  
持上げ能力; 20t  
揚程; 85mm  
自重; 10kg  
価格; 4650円

補強案1



補強案2



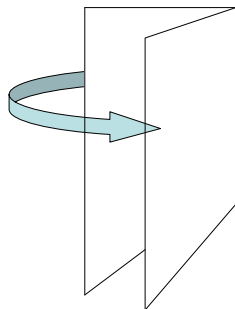
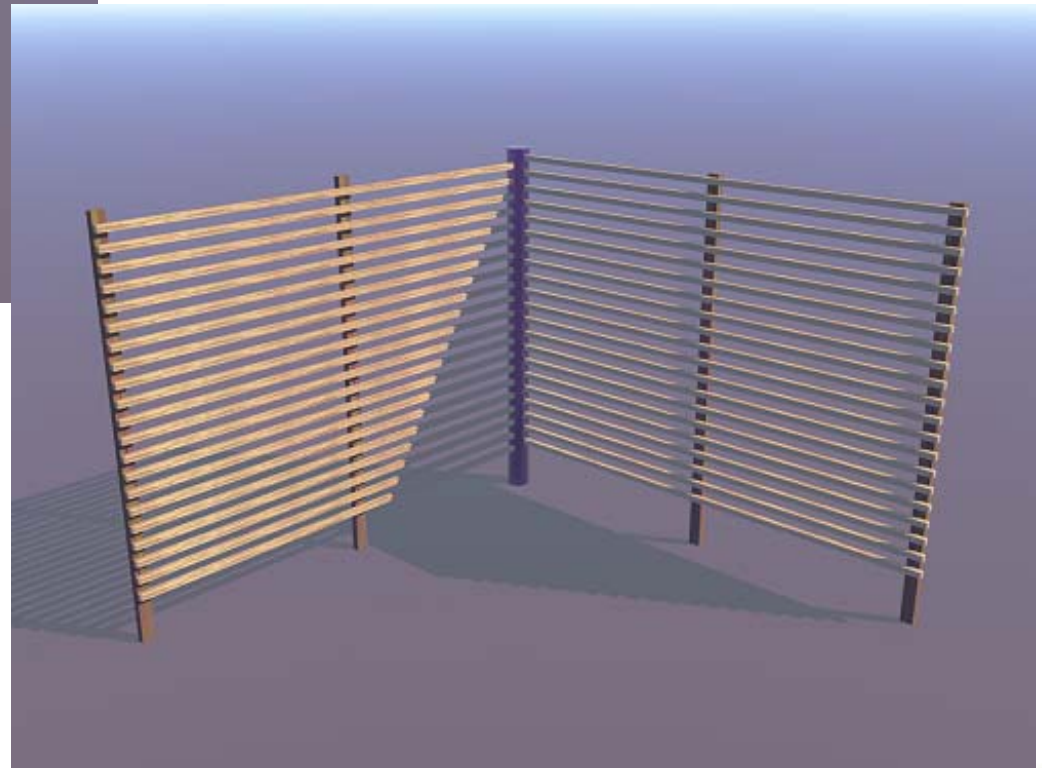


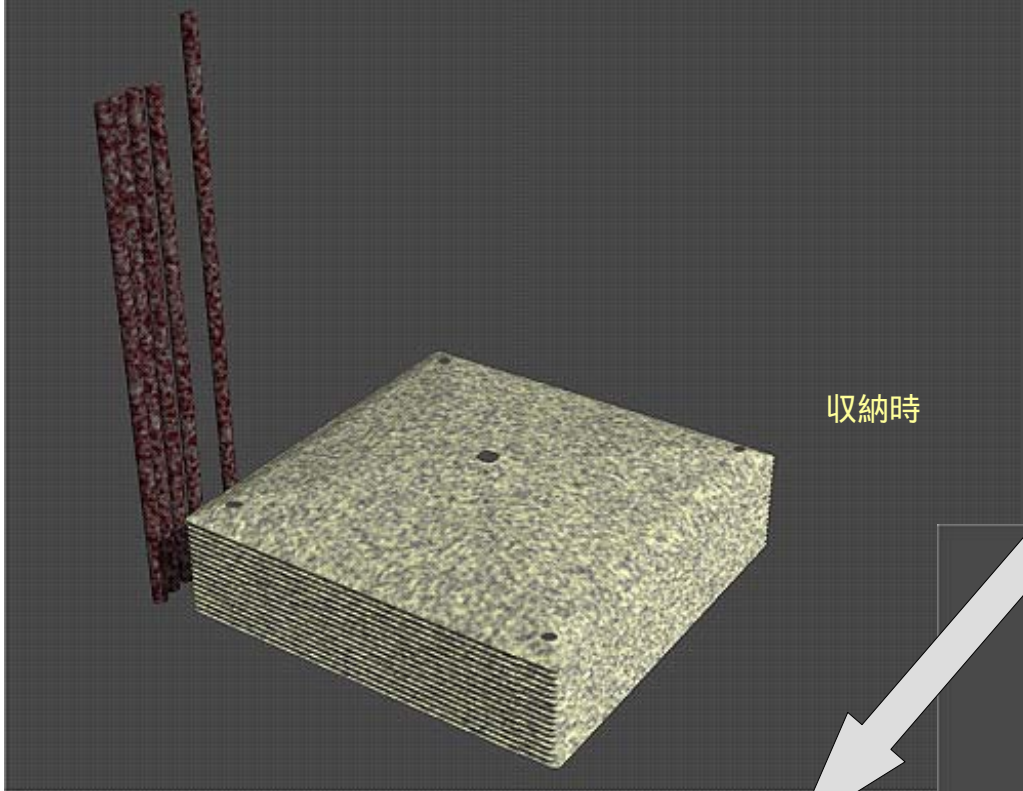
スキマを前提とした壁

ある程度のスキマは外からは見えにくく、内からは通風性が良い。

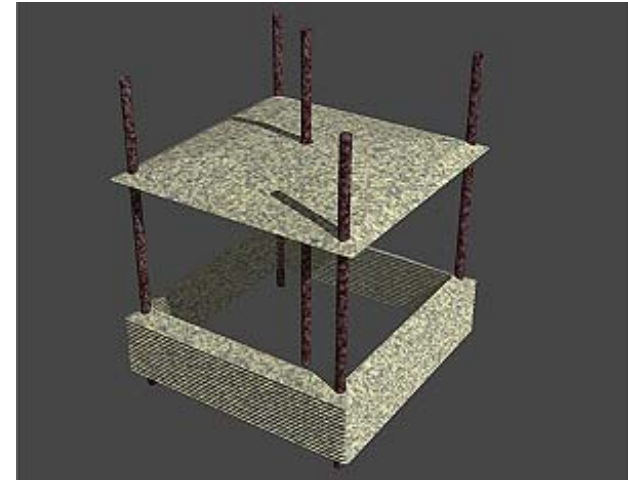
折りたたむと一体型の一枚板になる。このパッケージを利用して、壁、フェンス、ついでなど利用する。

トロント周辺の夏は湿度が高め(ナイアガラ瀑布の関係?)らしいので、むしろ積極的に開放系とする。自然に溶け込むという意味もある。

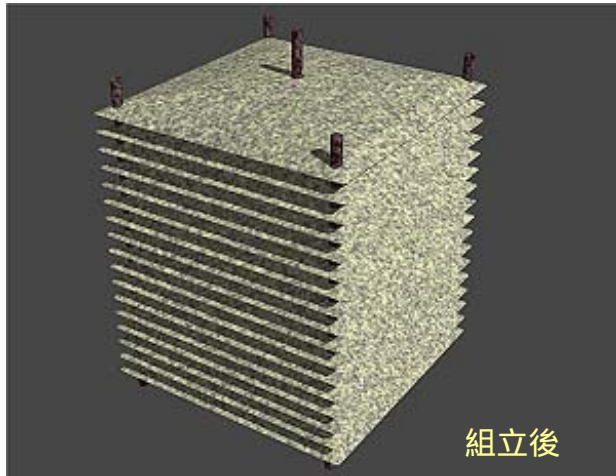




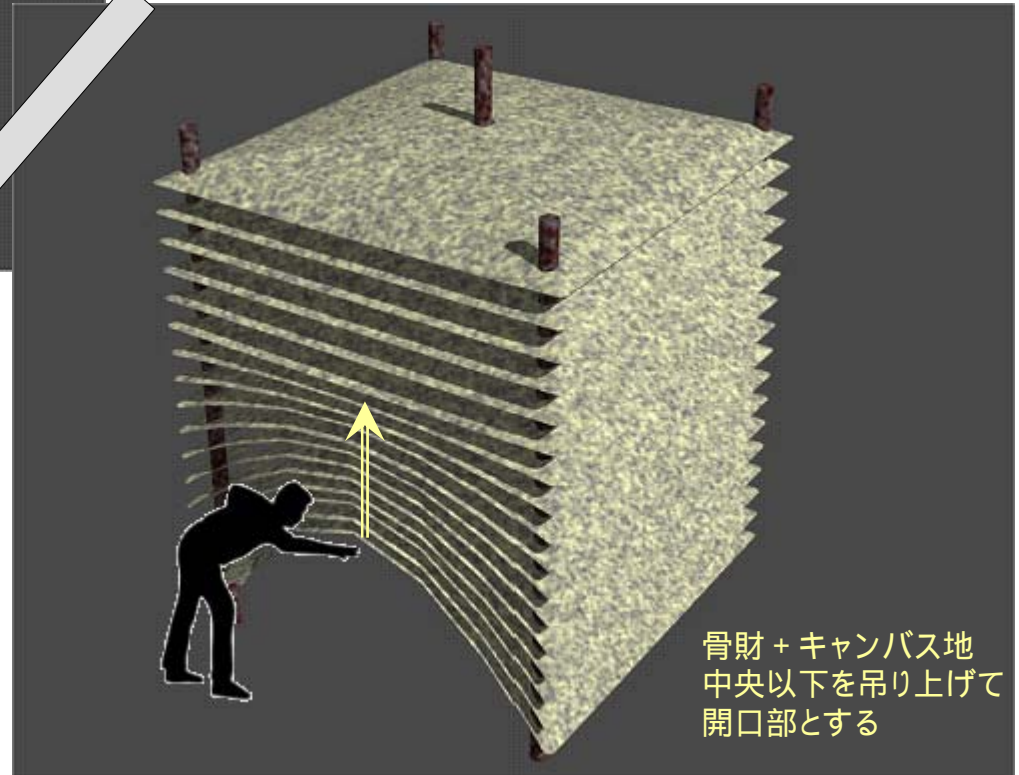
収納時



天幕組立て  
最上部のみ笠  
下部は縁のみ



組立後



骨財 + キャンバス地  
中央以下を吊り上げて  
開口部とする



コンセプト 『ハザマを彩る;“私とはいったい誰なのか”』

「創る悦び、遊べる愉しさ、伝える粋---がそこにアル;自分空間表現Cube」

## “クレミアン”

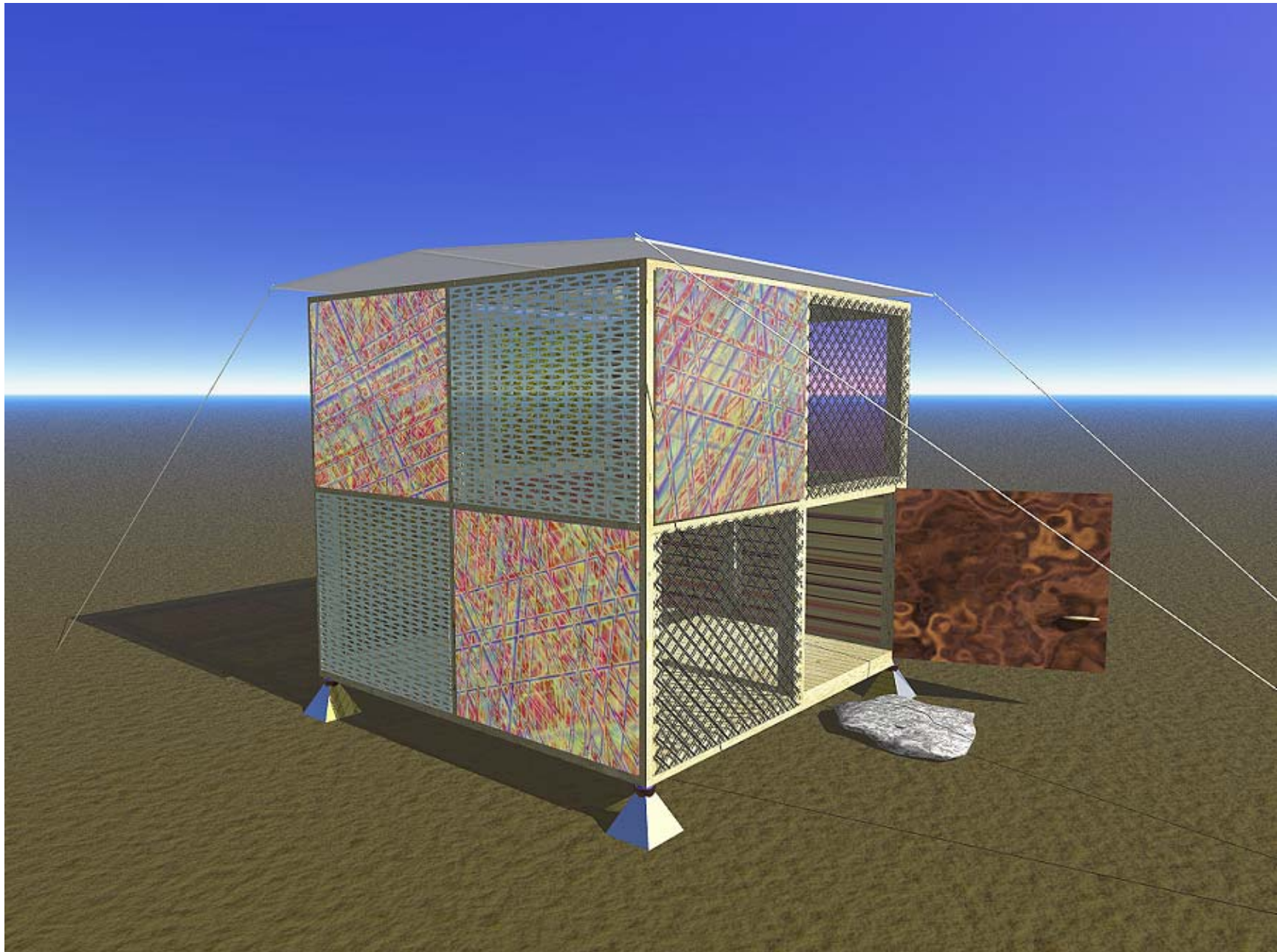
空間創出メディア

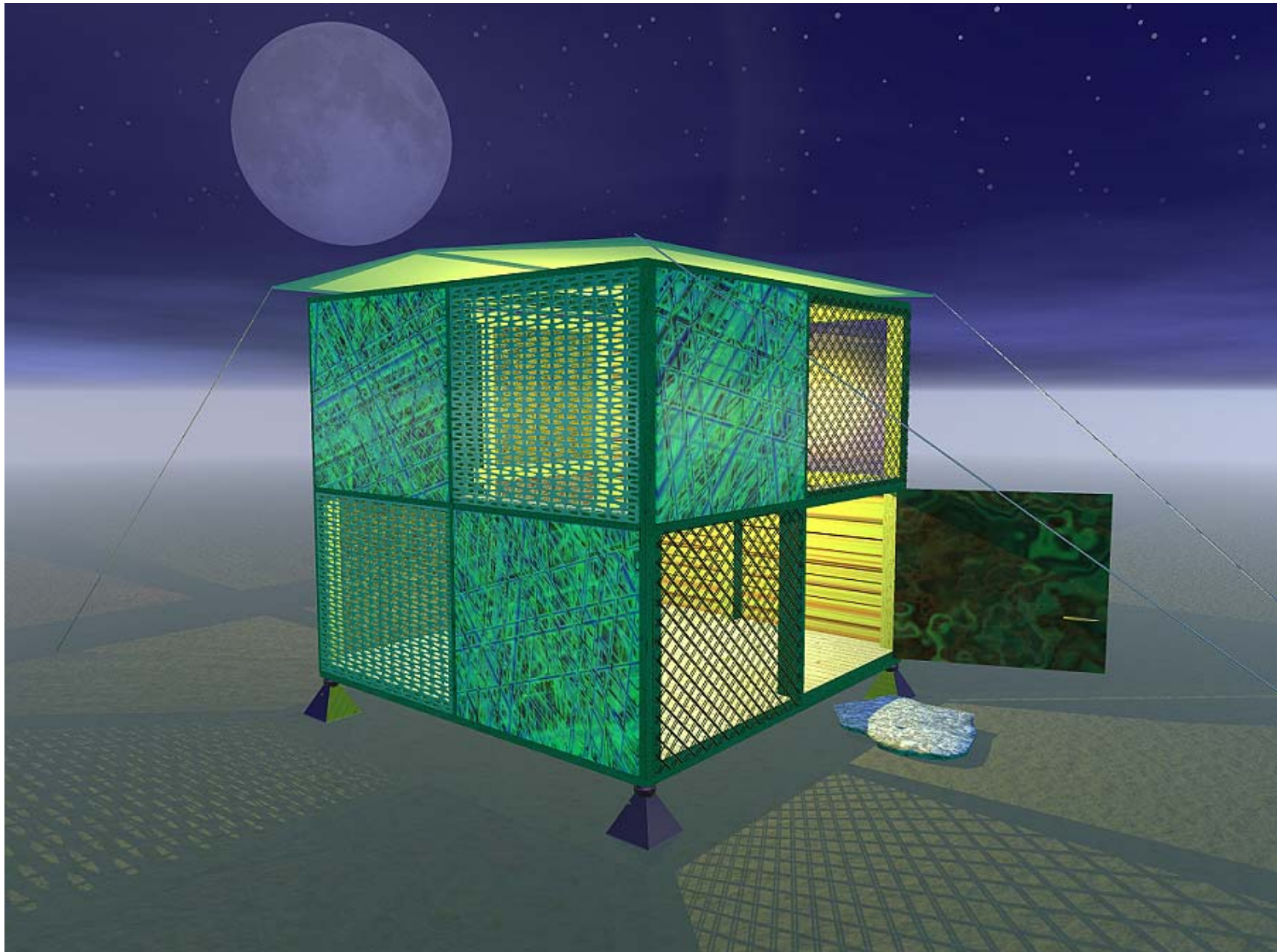


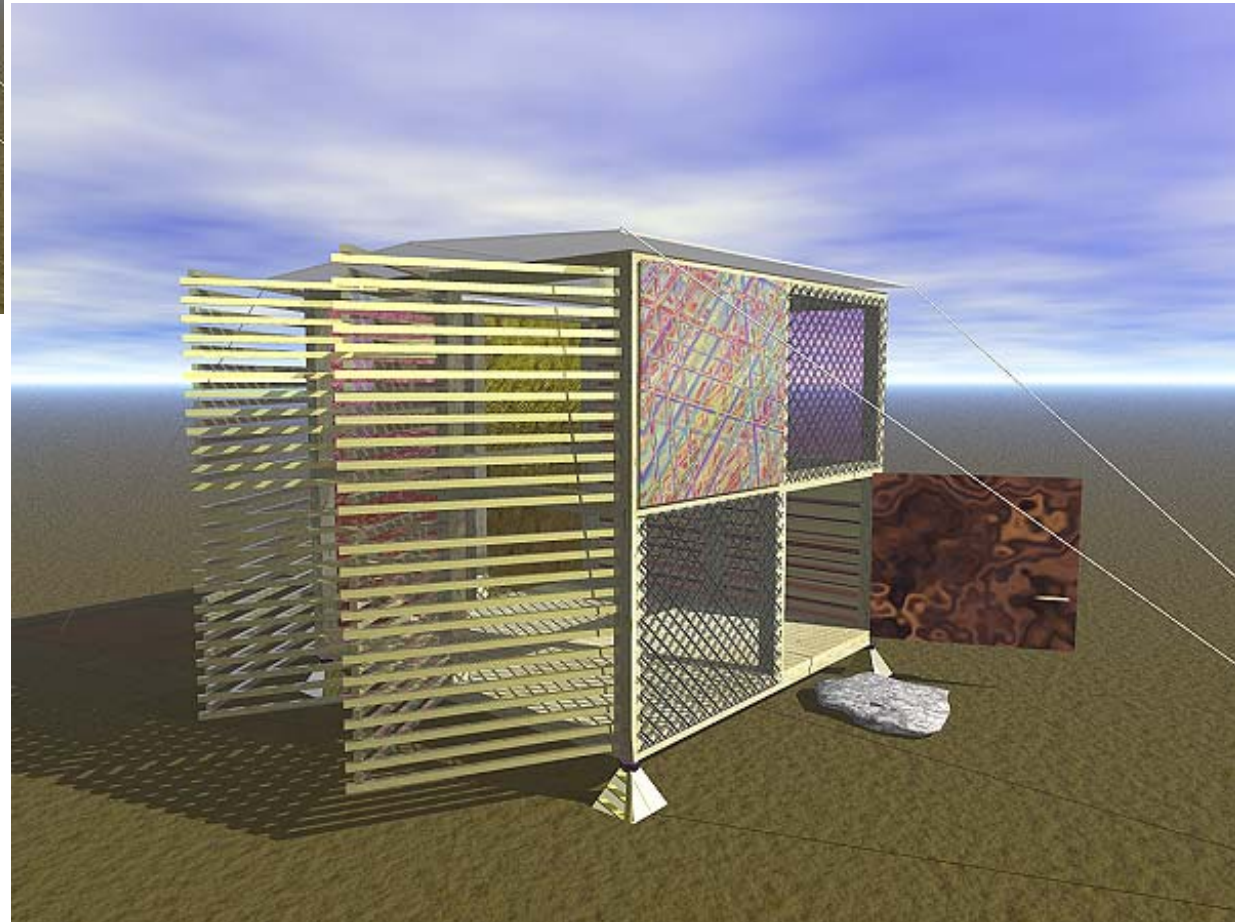
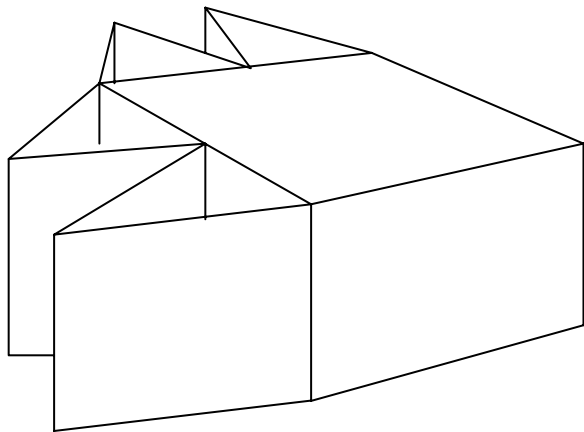
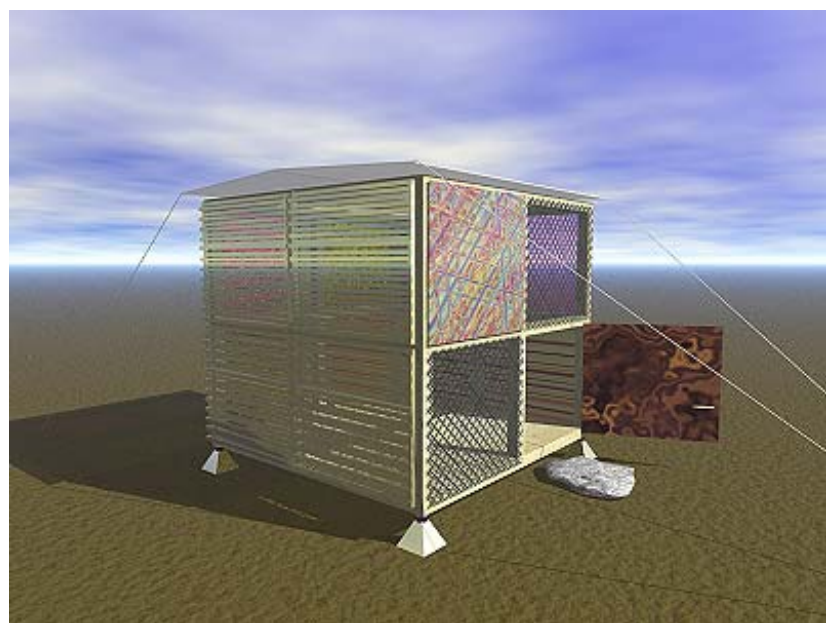
便利・面白グッズ

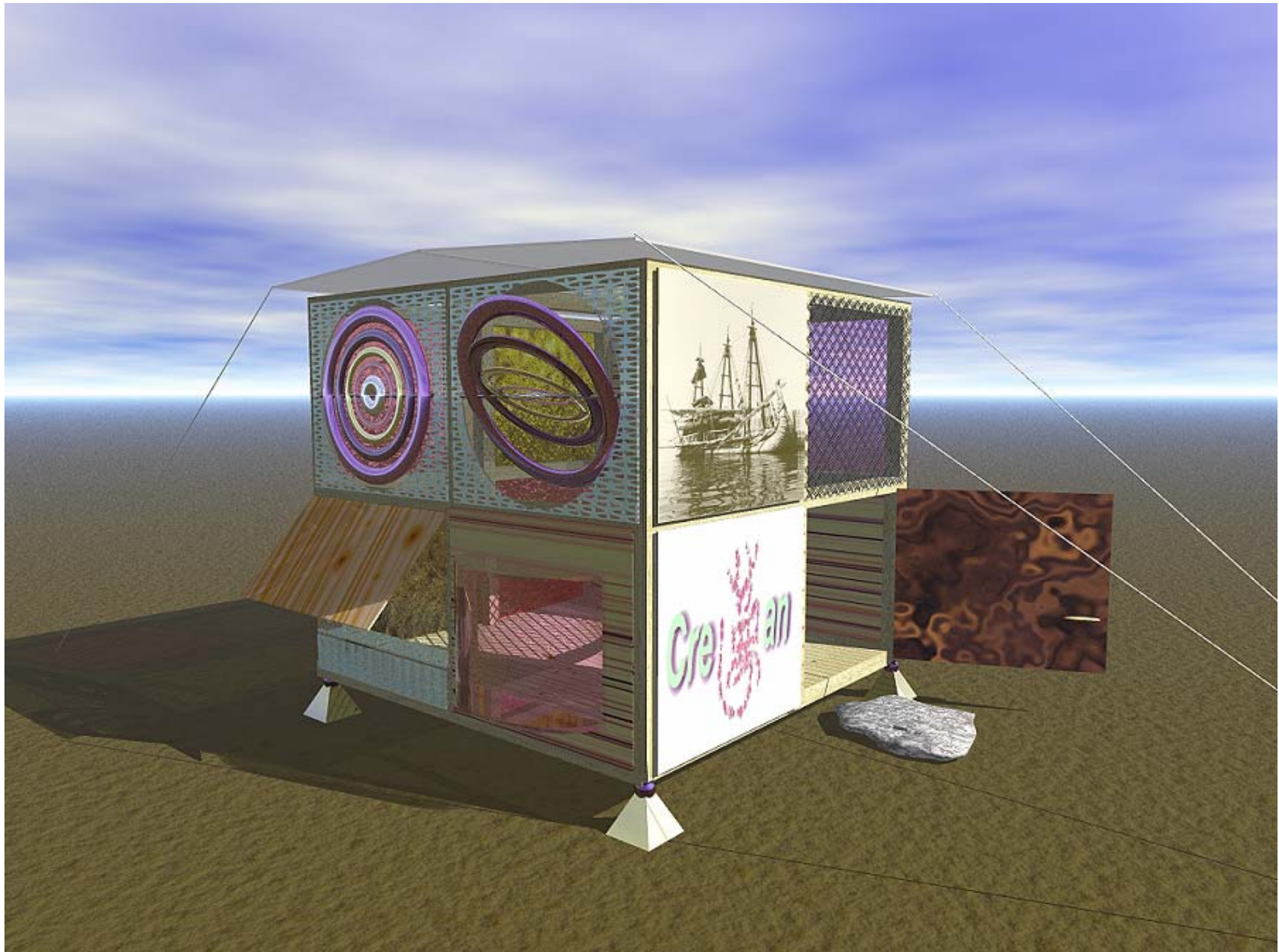
自分表現舞台

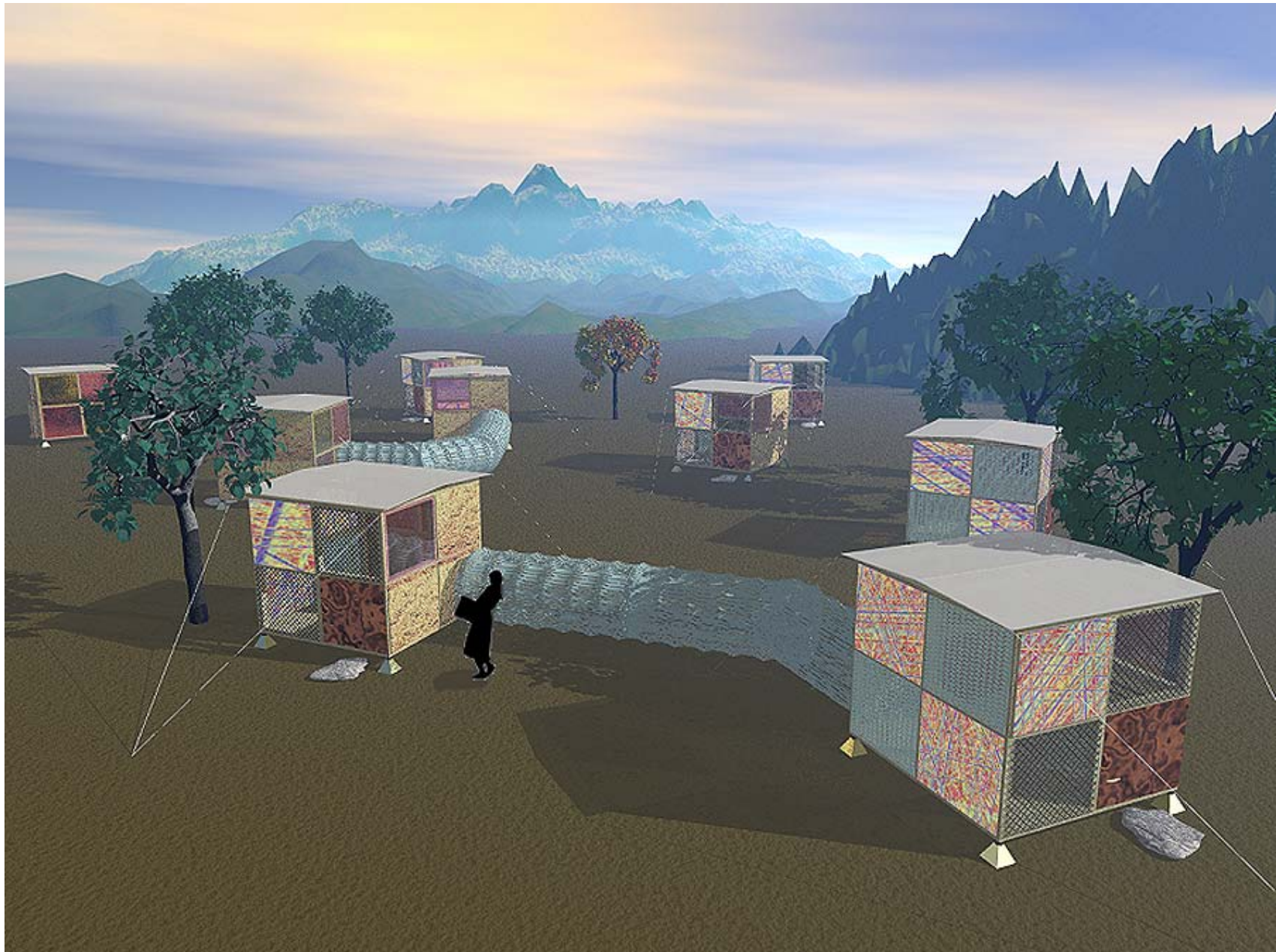


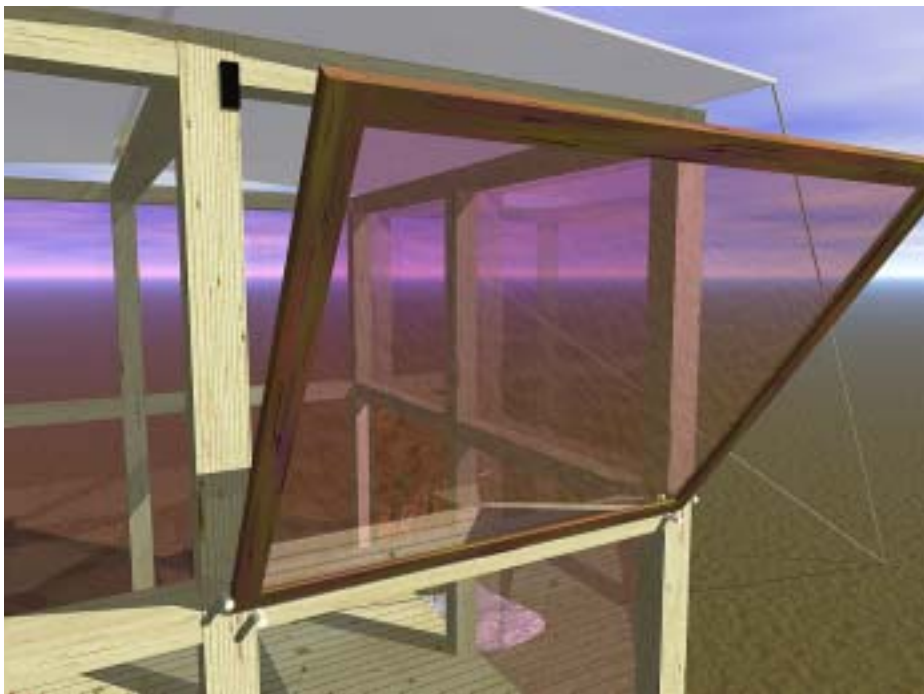




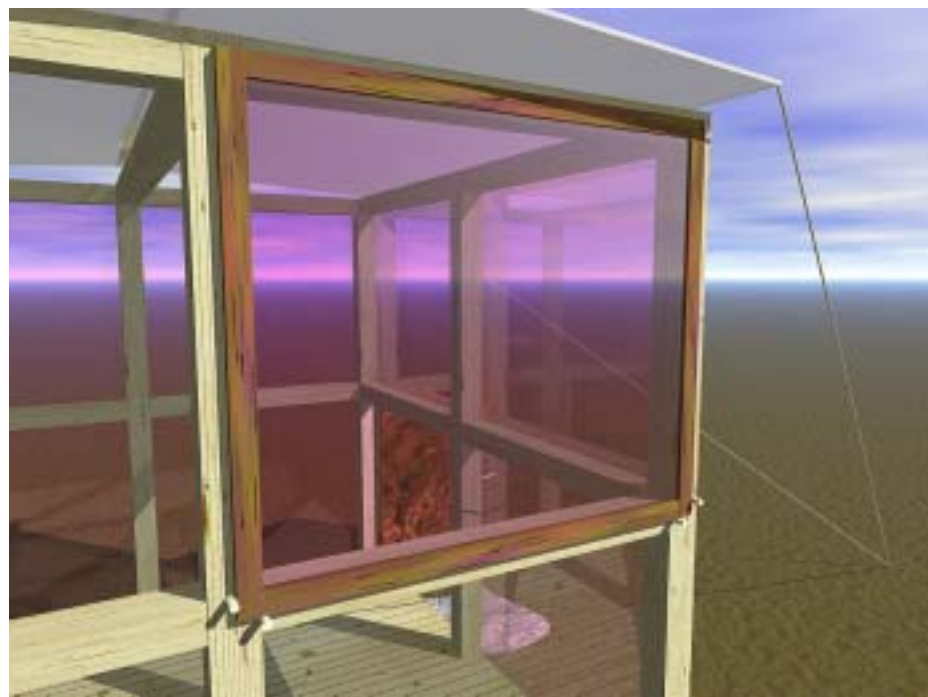








構造用の角材に貼られたマジックテープ。  
ガイドに合わせて、マジックテープを貼ったパネルを装着する。  
パネルは900mm四方の木枠に装飾パネルを組合わせたもの。  
パネルのデザインは自由である。





パネル装着後の完成状態。パネル設置は強力マジックテープ。

2mの角材約20本、ジャッキ、布製天幕、パネル、接合金具のみによるノックダウン方式のHUT2(“木製テント”ともいえる)。組立て、解体ともに1時間。最低人数2人。





個々のパネルは変化させることができる。 空間演出装置。





3段階切り替え式の空間拡張グリッド。





2003年8月

武蔵野美術大学  
工芸工業デザイン学科インテリアデザイン研究室  
空間演出デザイン学科  
協力 岡江工務店、ペンションアリエスカ

